

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2270800036
法人名	有限会社 夢無限
事業所名	グループホーム 夢無限 おおひと
所在地 (電話番号)	静岡県伊豆の国市田京929-5 0558-77-0018
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(平成20年 4月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 13.4

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋建て	造り
	1 階建て	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(平成20年 4月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田京診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大仁郊外の自然環境あふれる中に立地し、1フロア平屋建てのゆったりと明るく清潔な施設環境が整えられている。開設3年目を迎えホーム長交代による積極的な運営改善活動の実施と、職員の「お年寄りが好き」という言葉に代表される積極的な連携で利用者の明るく穏やかな暮らしぶりが窺えるホームである。市街地からやや離れていて周辺住民も少ないが、利用者が地域に密着して生活できるよう運営推進会議を通して地域交流を図るなどの取組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム長交代により、前回外部評価改善項目を含めホーム運営改善に取り組み、一部を除き大幅な改善実施が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長は自己評価、外部評価を積極的に受け止めており、今回の自己評価には全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホーム長交代により中断していたが3月より再開している。地域密着型として多くのホームで成果を生んでいるこの制度を活用して、利用者へのサービスの向上に繋げていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書などで苦情相談窓口を明確にし、利用者や家族に伝えている。家族の訪問時には必ず声をかけて話しやすい雰囲気作りをし、ケアプラン説明時、TEL等で要望収集を行い、全体会議で検討、改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市街地から離れた立地の為周辺住民が少ないが、自治会への参加や近所付き合いでタオル差入れ・畑作物差入れを受けたり、廣瀬神社祭礼、蔵春院寺院お花祭り招待など地域との交流作りを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人ひとりの思いを分かり易い言葉でまとめ「私たちは、一人ひとりの暮らし方を大切に守りながら、笑顔があふれるホームをつくります」という理念を皆で作りました。	○	従来のグループホームの基本方針「家庭的な環境の下で」が「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」へ改められたことにより、その課題を運営理念に取り入れることを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が常に意識するようリビングに明示し、毎月の全体会議やユニット会議で話し合い、また、利用者が心身共に穏やかに過ごせるよう職員同士声をかけあって、理念に基づいたケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム立地上周辺の住宅は少ないが、自治会の参加や近隣住民との交流や、近くの蔵春院寺院のお花祭りの招待など地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長の交代により前回外部評価結果をホーム全体で話し合い、ホーム運営改善に取り組み具体的な改善がなされていた。今回の自己評価記入に当たっては全職員で取り組み、ホーム長が纏めたものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム長交代により昨年6月以降中断していたが、本年3月より再開し、家族代表・地域代表者・民生委員・地域包括支援センター等の参加を得てホーム運営課題への取組みを再開した。	○	ホーム運営状況、行事予定や課題取組みなどの意見交換と合わせ、地域との交流や防災の協力依頼など地域との積極的な関係作りに取り組む願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議への参加や日常的な相談業務・施設空き情報交換などで行き来を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節毎のホーム便りの発行と合わせ居室担当者からの利用者近況報告、暮らしぶりの写真同封や、ケアプランの説明や家族来訪時の面談などを通して金銭収支や利用者の暮らしぶりなどを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は重要事項説明書に明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。随時の近況報告、面会時の話合い、電話連絡、ホーム長の面談結果、家族の意見等を全体会議で検討し、それらを反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の交流を密にし、職員の異動・離職は極力抑えるようにしているが、やむを得ずそうなった場合は利用者に影響が出ないように十分留意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加呼びかけを行いなるべく多くの職員が受講出来るようにしている。それらの研修報告は全体会議で報告され、全職員への共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、同業者との意見交換や近隣のグループホームとの相互研修や課題検討など企画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、馴染みの場所での面談や家族を含めて見学に来ていただいたり、ホームの雰囲気を感じていただき、納得した上でサービスを利用し馴染んでゆけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の好むことや出来ることを把握し共に家事や会話をしながら、人生の先輩であると言う考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念の冒頭に「私たちは一人ひとりの暮らし方を大切に守りながら・・・」とあるように、個々の意向、希望の尊重を第一義として介護できるよう、利用者の日々の様子、会話の中から、心情を汲み取り、難しい場合は家族から情報を得て対処している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、個々の利用者毎に、アセスメントをベースに介護サービス計画(1)が作られ、計画書(2)で「本人の望ましいあり方」を長期・短期目的に分け作成し介護日誌により職員全員で日々の状況を把握し、変化に対応している。計画については職員間で情報の共有をはかり、家族の同意も得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画各項目の評価を元に、3ヶ月に一度の見直しを実施、また、顕著な変化の発生時にはその都度、現状に適する計画に作り直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、通院など必要な支援のほか、お寺参り・買い物・ドライブなど、本人の要望には柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医の訪問は、内科1回、皮膚科3回の月4回となっており、看護師は週1回のペースで往診を受け、協力医療機関の田京診療所は至近距離にあり心強い医療連携体制がみられた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアプラン作成時に家族の意向を伺いながら、重度化した場合は医師・家族・ホーム長にて対応を話し合っているが職員を含めたホーム全体としての方針の確立には至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基本指針の確立や、入居契約時から本人、家族の希望を確認し同意書をいただくなど、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りを取組み願いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳とプライバシーを大切に言葉かけや対応を行っている。訪問記録も一覧でなく、個別とするなど、個人情報に関する記録・資料は個人情報保護規定に基き保管も事務室にて適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に掲げる「いつも笑顔があふれるホーム・・・」を実現する為に、職員側の都合優先ではなく、出来得る限り利用者のペースを把握・尊重して介護する方針が重視され、利用者は畑仕事、針仕事、写経、水戸黄門体操・読書など個々に好きなものを好きな時に楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員交代で10日毎に自前の献立表を作り、家族から「温かい食事を頂けて喜んで」との好評を頂いたり、利用者にも台所仕事のお手伝いから、味見や作り方の教えなど共同作業を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木のぬくもりの檜風呂で外には草木の緑が見られ、癒し感たっぷりの空間で原則週2日、火、金の入浴日と必要に応じたシャワー浴対応と利用者の希望に合わせ、時間や順番、湯船に入っている時間などは十分に配慮している。	○	利用者のその日の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて入浴できる回数を増やす取組みを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の能力や楽しみごとを活かせるよう職員は見守り支援している。日々の家庭菜園・食事の手伝い・写経・針仕事・読書など個々それぞれに楽しみ、時には、歌手を招いて音楽を共に楽しむなど、潤いのある生活の維持、向上に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関入り口のスロープがなだらかで、戸外にも手すりが設けられ、出入し易い環境があり、散歩や外出、お寺参り・買い物・お花見・ドライブなどの写真が居間の壁に飾られている。また、近隣には楽しめる諸施設が多くあり、外出先の選択にはこと欠かない。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。玄関の横に事務室があり、玄関が見える配置に机があるので、出入りの確認ができる。平屋で玄関の両側に2つのユニットが並び、各ユニットの扉も開け放されて、ユニット同士の利用者が行き来していた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に消火・避難訓練を依頼中であるが、防災、避難訓練や地域への協力体制作りなどまだ十分とは言えない。	○	運営推進会議を通じて、防災訓練や災害時の夜間協力依頼を行うなど、地域の人達との輪をより大きくする活動に取り組み、災害対策を早期に実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員も利用者と共に食卓を囲み、食後さりげなく食事・水分摂取量をバイタルチェック表に記録しているが、栄養バランスやカロリー計算までには至っていない。</p>	○	<p>同系施設の管理栄養士の協力を頂くなど定期的に栄養バランス、カロリー摂取量の確認を行い専門的アドバイスを受ける事を期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平屋建て施設が郊外の山間に位置し、四季の変化を身近に感じ取れる環境の中で、静かで明るい陽光に恵まれた共用の空間は、のんびりと過ごすには最適で、居心地が良さそうであった。利用者から「入るなら、ここへいらっしやい」と勧められたほどであった。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各室の角には、クローゼットが備え付けられ、室内の整理状況は良く、馴染みの家具・備品で「私の」部屋作りがされていた。部屋の入り口はその人らしい飾り付けや名札があり、花の絵・写経・貼り絵などで自分の部屋だと主張していた。</p>		